



所報
(毎一月三回発行)
已克輝一千円
或五十部一月一冊
定額

23-29

待望の名画

風雲のベンガル

消防部員の勞をねぎらふ
聚樂館で招待券贈る

戰災者への配給と價格
期日は追つて通知

御念入りな時局詐欺

摘要と稱し家人の虚笑く

わい

した家庭のうちに、
平市の火災で罹災
戦災を受けて再び難を
受けた不幸な家庭もあ
つた。今度の罹災者は
各方面から文書及澤山の金品が
贈られてゐるが、聚樂館主飯田
近治さんは警防團員消防部員の
勞を歸るため、國員へ無料入場
各面にから文書及澤山の金品が
贈られてゐるが、聚樂館主飯田
百五十枚贈つて來たので消防
部でも飯田さんへ感謝してゐる
當局から通知あり次第速かに購
入して欲しいと地方事務所では
いつてゐる(單位錢)

了

言

戦時救護の恩恵に浴し
げた新手の時局詐欺が現れた
販賣することになった

区内會婦人部設置

婦人會結成の失敗糊塗策に執拗な市の態度

麥と馬野薯

池松所長辭任

後任は岸澤貞夫氏

富士興業磐城工場の所長であり

眞綿背蓋

二毛

三毛

四毛

五毛

六毛

七毛

八毛

九毛

十毛

十一毛

十二毛

十三毛

十四毛

十五毛

十六毛

十七毛

十八毛

十九毛

二十毛

二十一毛

二十二毛

二十三毛

二十四毛

二十五毛

二十六毛

二十七毛

二十八毛

二十九毛

三十毛

三十一毛

三十二毛

三十三毛

三十四毛

三十五毛

三十六毛

三十七毛

三十八毛

三十九毛

四十毛

<div data-bbox="670 23

「危機一步前」などと云ふ言葉では未だなほ生ぬるい感じのする現在の食糧事情は『嘆火山上にある』と表現したい實情である。こんなに早く差迫つた食糧危機は何に原因するか? 全國的な現象とは云へ生産地をすぎる感がある、記者は縣食糧營團連絡部長安島八郎氏を尋ねて供米の實相を衝くと共に今後の見透について聽いて見た、以下はその忌憚のない眞相である。

食營の仓库は空つば

引渡しを拒む六千三十六俵

平市並に石城郡今月上旬の配給がその眞相は: 先に地方事務所が農村の自家保有米から相當の供出をさせたが、うち引渡を受けたものは傾か二千七百三十二俵、六千三十六俵の大量は町村側から引渡し更に平市へも波及して來た。この引渡をすべく指令を受けた町村は

高久、平、赤井、鹿島、上下

小川、好間、澤渡三坂、永戸

箕輪

の八ヶ町村でこの儘放つて置く

計三千六百五十俵がこの急場を

へ道送したが、これに對し十八

日になつて相馬郡から千二百五

十俵、双葉郡から八百俵、郡内

内の飯野、草野、小川の農村が

仲々引渡しに難色があり且下交渉

中にあるこのため食糧營團の

倉庫はいつも空腹で明日の配給

にも事缺く有様である。

『引取べし』の指令を受けたので双方

地方へは輸送手配中であるが郡

内飯野、草野、小川の農村が

仲々引渡しに難色があり且下交渉

中にあるこのため食糧營團の

倉庫はいつも空腹で明日の配給

にも事缺く有様である。

農民が管理すると云ふのではあ

るがその眞相は: 先に地方事務所が農村の自家

保有米から相當の供出をさせ

たがその條件として或一定の

事がそのわけ

農村の調整米を農村の食糧に

特に赤井、飯野、草野、鹿島の

充當させることを認めると云

農民は强硬で地方事務所長の釋

ふ約説を農村側へ與へたため明

を求めるところである。

麥と薯の出廻が命の綱であるが

それも農家自体が食糧不足な

程度出るか疑問だ、薯は

来月二十五日、麥は七月中旬ご

ろから出廻る豫想であるが、薯

の早掘と麥の早期操作がこの食

糧難を緩和する手段である、

ではこの忍び寄つて來たこの

現實に對し一般家庭ではど

んな心構が必要だらうか、食生

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)

◆女子部 / 石山媛 (東北配電) 2吉田昌江 (全) 3瀬野静子 (隅田川炭礦)

◆星半ミ (勿來町役場)

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)

◆女子部 / 石山媛 (東北配電) 2吉田昌江 (全) 3瀬野静子 (隅田川炭礦)

◆星半ミ (勿來町役場)

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)

◆女子部 / 石山媛 (東北配電) 2吉田昌江 (全) 3瀬野静子 (隅田川炭礦)

◆星半ミ (勿來町役場)

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)

◆女子部 / 石山媛 (東北配電) 2吉田昌江 (全) 3瀬野静子 (隅田川炭礦)

◆星半ミ (勿來町役場)

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)

◆女子部 / 石山媛 (東北配電) 2吉田昌江 (全) 3瀬野静子 (隅田川炭礦)

◆星半ミ (勿來町役場)

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)

◆女子部 / 石山媛 (東北配電) 2吉田昌江 (全) 3瀬野静子 (隅田川炭礦)

◆星半ミ (勿來町役場)

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)

◆女子部 / 石山媛 (東北配電) 2吉田昌江 (全) 3瀬野静子 (隅田川炭礦)

◆星半ミ (勿來町役場)

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)

◆女子部 / 石山媛 (東北配電) 2吉田昌江 (全) 3瀬野静子 (隅田川炭礦)

◆星半ミ (勿來町役場)

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)

◆女子部 / 石山媛 (東北配電) 2吉田昌江 (全) 3瀬野静子 (隅田川炭礦)

◆星半ミ (勿來町役場)

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)

◆女子部 / 石山媛 (東北配電) 2吉田昌江 (全) 3瀬野静子 (隅田川炭礦)

◆星半ミ (勿來町役場)

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)

◆女子部 / 石山媛 (東北配電) 2吉田昌江 (全) 3瀬野静子 (隅田川炭礦)

◆星半ミ (勿來町役場)

十名の多數に達し白熱戰を展開

したが結局左の如く男子部は石

上君、女子部は石山媛が優勝選

手権を得得した。

◆男子部 / 石上益美 (東北配電) 2酒井忠久 (小名濱日素)

◆木長九郎 (小名濱日素)

成守 (勿來クラブ)